

市民英知を結集し

わたしたちの南国市は



ふるさと南国市は、昭和34年10月1日、市民の皆さんが夢を託らせて市制を施行、幾多の変遷を経て、今、壮年にさしかかる三十路を迎え、第二の京都にふさわしい風格を備えた市勢の発展をみるにいたりました。これもひとえに市をこよなく愛する市民の皆様のだゆまぬ努力と、ご指導、ご援助のたまものであり、衷心から厚くお礼申し上げます。

市議会は市制30周年を記念して議会史を発刊しました。変貌の激しい今日の地域社会の中にあつて、議会の果たす役割はますます重要なものとなってまいりました。そのような中で、先輩議員の功績で地方自治の中心となつてきました議会の貴重な記録も、ともすれば忘れられ、時とともに散逸しがちであることから、議会の歩みを確かな形で記録にとどめ、過去から未来への指針になればと考へております。先輩議員の意を受け継ぎ、これを契機に決意を新たに、いっそう健全な議会の確立に力を尽くし、民意の伸張に貢献していく所存であります。

世紀2100年まで後10有余年であります。新しい世紀へ今羽ばたかなければなりません。その目標は各般にわたる市民福祉の向上を図り、新しい市政の峰を築くこととあります。48,000市民のご指導とご支援、ご協力をいただき、市制30周年を節目に更なる発展のために歩みを進めてまいりたいと存じます。

市議会議長 門田 益治



祝賀会

今後のさらなる発展を

満30歳になりました



それぞれ貴い伝統にはぐくまれた個性と誇りを持つ15カ町村が紆余曲折を経て一つの自治体となり、ここに30周年を迎えました。

わが南国市は、北に山を負い、南に海を臨み、農業発祥の地と言われる穀倉地帯の中央部に位置しており、市民はこの地を土佐のまほろばと呼んで天と地に感謝し、郷土を礼讃してきました。

近年は、高知空港があることによって空の玄関と言われ、また高知自動車道のインターチェンジがあることで陸の玄関にたとえる人もいます。更に、国道、バイパス、広域農道、沿岸地帯を東西に走る黒潮ライン等、交通、輸送網は日を追って密度を加えています。21世紀を間近に控えて刻々と変転していく世相に「かんがみ」、私たちは第1次産業に依存してきた田舎都市から、豊かさを求める市民のニーズに応じて、第2次産業の振興、誘致に努め、産業都市の性格を持つ郷土へと盛り立てていく使命があると存じます。

百尺竿頭すべからく一步を進めるならば、幸い当市には幼稚園から大学まで、各段階、各種の教育機関が揃っているため、古い文化の遺風を掘り起こし、学園都市あるいは文化都市の性格をも兼ね備えた調和のとれた近代都市の建設ができないものか、私たちの大きな使命の一つに21世紀に役立つ人材の育成があるのではないかと考えております。30周年を迎えるにあたり、市民各位の旧来に増してのなおいっそうのご指導、ご後援を賜うることができれば幸いに存じます。

市長 小笠原 喜郎



市長表彰